子どもはみんな問題児。を読んで

　　佐々木　乃梨

中川李枝子さんの「子どもはみんな問題児。」の本については、子どものいる友達にいい本だよと勧められたこともあってこの本の存在は知っていた。

その時には友達の話を聞いていたこともあって、子どものいるお母さんに向けての本なのかなと思っていたが、今回課題として読むきっかけをいただき実際の読んでみると先生という立場で考えさせられることも多くあった。

中川さんの温かい語り口調で書かれていることもあってとても読みやすく、あっという間に読み切ってしまった。

どの章もとても考えさせられたり、気づかされる内容であったが、P４８～の「保育のポイントはどうやって遊ばせるかです」というところは特に印象的であった。りえこ先生のクラスはちびくろサンボの絵本に大熱狂であったと書かれていたが、ばら組でも「おしいれのぼうけん」や「いやいやえん」に夢中になるような姿が見られていた。朝の活動で絵本を読むと、絵本の世界に入りこんでみんなで物語を共有し、読み終わると物語について自然と子どもたち同士の会話が起こり、楽しかった、満足したという気持ちが表情から読み取れた。そこからもう１ステップ、絵本のお話としてだけでなく遊びに繋がっていくような場面もあったが、普段年長のカリキュラムは目いっぱい詰まっていることもあり、十分にみんなで遊びきることは時間的にも難しいことが多い。とても絵本がすきなばら組なので、りえこ先生のように子どもたちに十分に遊びきる経験をさせてあげられたらと改めて感じた。またそのためには何ができるかも今後考えていきたいと思った

また、p１２９の「見ているつもりでも、見落としがいっぱいある」の章も印象的であった。絵本を見ているときの子ども達を見るといつもと違った表情や一面を見せてくれることがあるというのは私自身も日々の保育で感じている。

だが振り返ってみると何気なくその変化を見過ごしてしまっているようなところもあったなと反省した。子ども達と一緒に絵本を読みながら、ひとりひとりの表情にもよく注目して小さな発見を大切にしていけたらと感じた。

　中川さんの本をよんで日々の保育を振り返ったり、考えるきっかけになったので今回感じたことを今後の保育に生かしていきたいと思う。